［百四十二番電話三三四〇番］　昭和十三年一月十九日　［水曜日］　第五千百二十七號　［一］

夕刊

# 若城新聞

一月十八日發行

東京投書番號　一〇八、五六五番

（日曜祭日翌日休刊）

時間　金六錢　郵送料　金五錢

定價　一ケ月金六拾錢　［但し東京市内は金五拾錢］

廣告料　［銀座關係　金九拾錢　金壹圓二拾錢　（特別指定）］

發行所　若城新聞社　若城市田町十丁目　電話（代表）四〇番

印刷人　柏木　衛

印刷所　若城印刷合資會社　若城市田町十丁目

## 松本良三の事ども

早崎生

松本良三と始めて會つたのは、たしか昭和五年の秋へ尋ねて來た。格別用事が頃、九段下の僕の下宿へ前あつたとも見受けられなか川佐美雄君がつれて見ゑつたが、さうとて、なんかれたときだつた。勿論僕は雜誌について意見がありげ最初の新興俳派タンカ誌でにちよいちよい言葉の端にあるエスプリによつて彼のあらはれてゐた。僕は彼が名を知り、その作品の方向好きだつた。あの善良な質及び色彩が、朴な態度は決して不愉快さ荒地野菊一面に白く咲き呆けし凹地丘地にこもる同時に、本當はかれの寡言草いきれ　が少々僕には苦手でもあつの類であることを知つてゐてあまし氣味もあつた。したがつて極く常識的座談のうけわたしが、餘りではあるが、ひそかにかれにエンクッ・アチャコであはその風姿において如何につては困るが、僕等の場合モダナイズされてゐかを興のやうに炭俵と寒德利であ味ふかくうかがつてゐた。つては始末にをへない。二しかるにこの僕の常識は見時間ばかりつくねんとして事はらいのけられて小氣味ゐられたが、丁度小笠原文よいことだつた。だがしか夫氏が野地曠二氏と一緒にし、この安堵に似たかすかな見ゑられたので、それをしな痛快は、かれの無口に途ほにかれはポツンと釣糸が迷ひはじめやがて糸の小彈きれたやうにはじかれて直に通げだした。ぼつねんと上つた。

下うつむいたままかれはつ三度目にかれに會つたのひに駄り徹した。前川氏とは、いつだつたか短歌作品他愛もないむだぐちをたゝき合つてカラカラ眞迦笑ひをする僕をさぞグスな野郎と思つたことであらう。けれど大して退屈してゐるやうすでもなかつたかれが歐最後の言葉となつたのである。

### 訪富塚勿來校長

珠雲　小野　務平

藤清彦年出鳳麟
無言桃李德爲鄉
居常翼々恭應讓
學界由來稱親人

### 山に來て

よし

○さなる山の麓ヶ影ゝし　南へ行ける白雲の

○濁りなれば松の根方の萩さに　揃へて植えぬ黒き藤の實

○山に來て海眺むれば愚むる　悲しみを吾が悲しみにけり

○寒々と好間の空を燻らして　地殻發なくむせぶが如し

### 天氣豫報

小名濱測候所發表

今晩は北東の風曇
明日は南東の風曇
時雨模樣

### 新刊紹介

△國民法律叢書一月號（會費半ケ年一圓二十錢一ケ年二圓四十錢東京市荒川區尾久町五の一、一八一其會

### 講談

悲戀　**闇の牢組**

（92）

林　李兵衛作
金子　士郎畫

二つの謎（七）

梅松がかんざしをなせ捨てたか？

といふ謎を解く必要がある——と云ふので、茂子は近所に住む駕籠屋、勘太と小六を賴んで、下谷の坂本まで、梅松を迎ひにやつた。

間もなく梅松は、その不自由な身體を勘太と小六に助けられて、茂十の家に着いた。

「親方、急にまた御用が出來たので御座いますか？」

「御苦勞だつた。改めて訊きてえことがあつてなア」

「へえ、それはまたどんな事で御座います？」

「お前は昨日、俺に嘘を云やアしなかつたか？」

「いゝえ、決して嘘偽りは申しません」

「お前はあの晩、何處へも出ねえと云つたなア」

「へえ……」

「確かに、何處へも出なかつたか？」

「はい、まつたく……」

「嘘を云つちや爲にならねえせ、あの晩お前の姿を見たと云ふ者が、確かにあるんだが、それでもお前は何處へも出ねえと云ふのか」

「ちやツ！」

「ちやア捨てた物は？」

「それも別に……」

「嘘を云つちや爲にならねえと云つてるんだぜ。此の不具者では、お藤が却て可かんざしを捨てた覺えはねえと云ふのか？」

茂子は、梅松の前へかんざしをほり出した。梅松は一目見るなり、はつと狼狽をして顏を伏せた。

「覺えがあるだらう？」

「は、はい恐れ入りまして御座います」

「捨てたのか落したのか、どつちだ？」

「捨てたので御座います」

「此のかんざしは、お前がお念入りに細工をして、お藤の婚禮祝に贈つたと云ふのぢやねえか？」

「左樣で御座います」

「お藤にやつた品物が、お藤が殺された晩に、どうしてお前の手へ戻つて來たんだ？　そうして、それを何處へ出ねえと云ふんのために捨てたんだ？」

「……」

「云へまい。お前は人を賴んでお藤を殺したんだらう？」

「ち、違ひます。そんな事はまつたく御座いません」

さう云ふ中で、梅松は泣つと涙を拭いた。その樣子々疑つと見てゐた茂十。（何か仔細がありさうだな？）

心中で憶測したが、もう一應優しく、

「ちやアどうしたと云ふんだ？」

と、問ひ詰めた。

△萩生狙來發す（19日）

△國際學生スキー選手權大會において日本選手は第一、二、三、四位を獨占（昭和一一）

△元帥府設置（明治三一）

△荻生徂徠歿（享保一三）

1月

### 東北の銘釀

◇謹賀新年◇

特撰　鉋牌　嵐山　昭和陶然

山形縣嵐山酒造株式會社醸造

### 戰捷の春は特撰嵐山

トクセンランザン

平市三丁目

上總屋商店

電話七三一番

### 吉田眼科醫院

醫學士　吉田久雄

平市紺屋町　電話六八番

### 和洋建具家具テーブル椅子

其他裝飾品一般……

御用命は迅速に御勞め致します。

諸官衙各學校御用達

### 製作販賣

平市五丁目四

### 片寄製作店

片寄小彌太

電話四八四番

十五、六歳以上の見習徒弟募集

御希望の方は至急申込下さい。

### 平病院

平市警察署側（元磐城共濟病院跡）

（電六四一番）

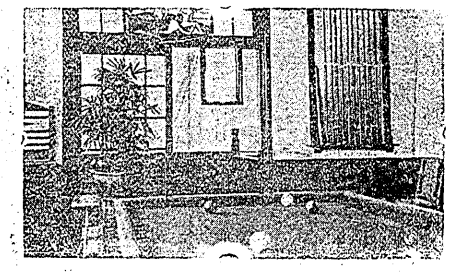
院主
院長　醫學博士　鈴木定藏

内科　院長　鈴木定藏
小兒科　部長　佐藤幾要司
内臟外科　副院長　高橋俊幸
一般外科
皮膚尿泌器科　部長　鈴木定藏
レントゲン科　醫學博士
物理的療法科　技師　吉川元雄
藥劑科　部長　藥劑師　吉本孝平

◎診療時間　毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）

往診隨時（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備……入院隨時（自炊ノ便アリ）
入院料　一日　特等—貳圓　一等—壹圓五拾錢　二等—壹圓參拾錢

### 新年會



鐵道指定旅館
割烹

### 小瀧鑛泉

電話小名濱二三

平市二丁目

### あまと自動車商會

電話六四〇番

### 耳鼻咽喉科レントゲン科

### 高柳醫院

醫學博士　高柳博明

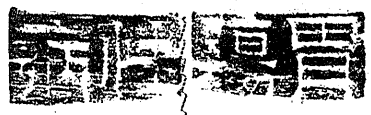
平驛前（電三三六）

（入院隨時自炊ノ便アリ）

看護婦募集

### 診療時間

夜間



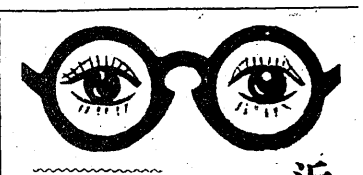
内科
胃腸病科
專門
花柳病科
性病科
皮膚科

### 松村胃腸性病科醫院

（平市南町電一〇七番）

（見習看護婦募集）

### 近眼老眼亂視眼用



メガネ澤山取揃つて御座居ます。

是非一度御來店下さい

各眼科處方調製

正確と勉強の店

### 玉屋眼鏡店

平市二丁目

### 男女工員募集

### 東北一の大工場

從業人員四千餘名

製品、人絹、ソーダ、二流化炭素晒粉、過燐酸

### 昭和人絹錦工場

男十六才……三十才まで
女十三才……二十五才まで

御入社御希望者は御申込下さい
詳細御通知、又は參上面談

石城郡錦村大倉
鈴木林

### 新車のお知らせ

斷然!!!　乘心地良い!!!

### 三七年型フオード

入車いたしました。
是非！御試乘の程を！

市內四丁目

### スヾキタクシー

電二一七番

### 御贈答品には

ニンベン

### 千宍戸屋商店

平市四丁目

電話（鹽干部）二一五番
（鮮魚部）四〇七番

### 高島屋の洋服

廣背柄新
レンコート

### 賣特服征出

品製既ニ並注文

### 高島屋

平市二丁目

電話三八番

外科（內臟外科及一般外科）
X光線科、花柳病
岩手醫學士　萬波動
內科、小兒科
院長　前田清美
（自炊ノ便アリ）
（病室完備）

### 前田醫院

田町本町電話一二四番

# 林大將の來平を機に 第三校で記念講演會

## 滯在二日間の日程決る

前首相陸軍大將林銑十郎氏は來る二十五日午後一時五十一分着で來平、同夜六時から平市並に在郷軍人聯合會主催の下に第三小學校講堂で記念講演會を開き同夜一泊の上各地を視察翌二十六日午前十一時十分發で郡山へ向ふと、滯在二日間の日程左の如し

△一月二十五日 午後二時半自動車で磐炭視察、四時住吉屋本店歸着五時卅分宿舍發講演會場第三校へ、六時講演、八時官民合同歡迎會(谷口)

△一月二十六日 午前八時小名濱港視察、十時小名濱發十時四十分平着、十一時十分平發

## 護國の柱

# 忠烈五勇士

きのふ原隊から發表

昨年十月老陸宅の激戰で不滅の勳功をたて、遂に護國の鬼となつた兩角部隊六十一勇士の戰死公報は昨十七日原隊から發せられたがこのうち郡出身者は左記五君である

△湯本町上等兵橋本市次(山本隊十月十八日)△內郷村上等兵渡邊新三(同)△錦村上等兵平子一(齋藤隊十月二十一日)△植田町上等兵吉田幸一(高橋隊十月二十九日)△石住村上等兵高橋玉喜(矢本隊十月二十八日)

## 大山氏市葬

市內久保町兩角部隊上等兵大山德直氏の市葬は來る二十三日午後一時から第一小學校講堂で執行する

同氏は田村郡美山村生れ市內七軒町大工職渡邊喜知氏方で修業、遺族は妻女サダ子さんきりである

## 。。。。。六名一網打盡

十六日夜內郷村綴合宿中田德太郎(三八)方で同人外坑夫五名が現金賭博開張中を平署に一網打盡

## 永年勤續町村長表彰

自治制實施五十年記念事業として本縣町村長會では來る四月十七日總會を開き二十五年以上勤續の縣下町村長並に町村會議員の表彰を行ふこととなつた

# 昭和人絹工場迄 汽動車運轉延長(區間) 陳情

## 請願停車場設置計畫

常磐線湯本、久の濱間と磐越線の平驛を中心とするガソリンカーの運轉は著しくその回數を減せられたとは謂へ地方短區間の交通上至大の便益を與へつつあるが、磐越線は兎に角常磐線の湯本止まりは其れ以南の利用者に取つて甚しく遺憾とせられ、其の運轉區間延長は日水工場關係の小名濱及び昭和人絹所在地の植田方面から夫々熱心な希望が擡頭して居たがそのうち昭和人絹の關係に就ては地元某有志により同工場附近に請願停車場を設けその運轉方を當局に陳情する手配になつた様である

# 郷土研究に就いて(五)

柳田國男

今度東北大學の講座で『日本民俗學』と附けられたが名前ばかりそんな名前をつくつても全國の資料が整つて居ないのが恥しい。一地方にゐても日本全體のどの地位を研究してゐるかを知つてをられる様にしたい。一つの學問とする爲には少なくとも資料の索引をつくらねばならない。日本全國のものがそれに依つて掌を指すが如くにわかる様にならねばならない。それで最近農村語彙とか海村語彙とか種々の語彙を集めて整理してゐる。

我々の研究は我々の想像してゐたものより非常に機運がよい。啓明會の事業として資料を索引でひける方法が立つた。その第一歩として日本民俗語彙第一版を一、二年後に出すと言ふ事になつた。

第二の條件としてこの學問が普通學となる事である即ち中等學校高等科で教へる様な教材を供給する様な機運にしたい。遊び事だと思はれる事が一番の損である。

只今此の所まで切角來て夜が明けた。

文部省ではこの必要を現に認めて惜しい事だと思はれるが郷土研究の爲め四、五十萬圓の金を全國の師範學校に使はせた。然し今迄は標本集めに使はれてしまつたが、今後は何に使ふか迷ふだらう。標本は集めるだけ集めれば要らないのだから。

○

獨逸では一九二五年に獨逸國民生活史を教員採用試驗の一課目とした。それを日本に眞似せよと云へば出來ない事もなからうが、然し獨逸は之れ以上の國家が無いと言ふ結論をこしらへて置いてそれに照してものを見て行く。我々は長所及び短所をありのまゝの姿で知り度いのであり、その問非常な差がある。臭い物に蓋をしたのではいけない。獨逸の方法はその點が我々と合はない。この點に就て當局が贊成されないのなら十年、二十年遲れても止むを得ない。我々は獨逸の道を歩まないつもりである。

一旦飢饉になると食へなくなると言ふのは過去に於て上手に生きなかつたと言ふ事になる。國に病がありしくじりがあつた理である。我々はどんなに自分の兄弟や親の惡口を知つてゐてもその知り方が外國と違ふ。我々のは自分の缺點と思ふ。

東北の今日までの歩んで來た道には歩まねばよかつたと思ふ所もあるらしい。隨分反省すべき事があつたらうと思ふ。それを我々は知り度い。

それ等を知つた上で色々判斷して世の中によりよく生きて行く様にしたい。(終り)

# 廿四名中重症七名

## 今後の新患者は三名位なので チフス禍 病舍は增築せず

全市民を戰慄せしめて居る市內のチフス患者は昨十七日一名隔離されたのを最終とし現在二十四名(內重症七名)に上つてゐるが外に二名の猩紅熱患者あり後の新患者の收容に關し昨十七日午後一時より役場內に傳染病豫防委員會を開き清水醫師も立會ひ協議の結果、今後收容を要する見込み數は僅かに三名に過ぎず、最大收容數の三十五名には尙若干の餘裕を存するので差當り病舍の增築を見合せ時宜に應じ廊下を區切つて收容する方針に決定したと

## 更に一名隔離

はや終熄を告げるだらうと見られてゐるチフスは依然蔓延、昨今兩日に亘つて長橋町荒川ウメ(三六)新川町高橋高三郎(四六)の二名の新患者を出してその數二十六名、昨夜隔離中の長橋町三小野シゲ(四〇)さんが遂に死亡したので現在の隔離はこの外猩紅熱二名を合せて二十七名である

# 東北振興 港灣修築費計上

## 小名濱、江名兩港決る

東北振興第一回綜合計劃中港灣修築費として昭和十三年度豫算に計上された總額は百三十萬圓(地元負擔を含む)にして其內譯は左の如く決定した(關係分、單位千圓)

小名濱港 一四〇
江名濱港 一五

## 濱三木炭組合總會

濱三郡木炭同業組合總會は十六、七の兩日平團体事務所で開催、新役員を左の如く改選、新豫算は總額十四萬四千七百七十四圓(今年對比三十圓增)で生產見込高は小俵百九十五萬俵、大俵六萬俵で今年度に較べて約十萬俵の減

(組合長)早川淸久(副組合長)第一支部長菊地壽七(川前)第二同西彌助(浪江)第三同古內龜次郎(小高) 評議員=(田人)綠川澄之助(平)狩谷佐一水野隆介(双葉)今野昇、根本一郎(相馬)箱崎榮喜知、永谷淸次郎

# 開港以來の豐漁

## 小名濱漁獲高

『水產王國福島』を築く最高の水揚港小名濱に於る昨年中の總水揚額は〆て二百十六萬圓の巨額に上り開港以來の豐漁記錄をつくつた イワシの八十六萬圓を筆頭に鰹の三十六萬圓がこれに次ぎこの外何れも素晴らしい漁獲高を示してゐる

## 平紹介所便り

平職業紹介所では目下わかもの青年學校生徒三十五名の斡旋に當つてゐる

資格は今年高小卒、青年學校普通科卒、中等學校二年修了程度のもの

願書締切りは今月二十日迄で來月下旬平市で採用試驗を執行、同校は四ケ年で卒業(費用會社負擔)後內外出張所等の事務或は技術方面に當らせるもの

○

尙同所では調教手十名の斡旋中である、詳細は同所で問ひ合せの上來る二十九日迄申込まれたいと、月收四十圓乃至四十五圓

# 漁夫八名遭難か

泉村下川武內與右衛門氏所有漁船八崎丸は漁夫八名を乘せて出航、豐間村十里沖合で機關の故障から航行不能、行方不明となり今早朝に至るも發見されない

十九日 (小名濱測候所調)
滿潮 前六、五五 後六、〇五
干潮 前〇、三〇 後〇、二〇

# 公設質屋と共に 隣保館要望さる

## 市役所社會課でも乘氣

平市社會課の新事業と目されてゐる『公設質屋』は旣報の如く白河、須賀川等の先進地を調査した佐藤主任の報告並に參考資料によつて目下種々計劃され果して新豫算に計上されるか、どうかは未だ決定しないが同課の豫算案は遲くも今月末までには整ふ豫定なのでそれ迄には判然とするわけである

なほ新興都市の社會事業方面における新施設として『隣保館』の建設方が要望されてゐる、もつともこの計劃は社會課設立前からの懸案となつてゐるもので、社會課としてもさきに山崎與三郎氏からの寄附もあり、これを基本に社會事業助會成の事業として實現を望んでゐる

がその建設費は約六千圓位を要するであらうと云はれ維持費の捻出策等社會課でも乘り氣になつてゐる

# 陣中を聽く

(66)

# 各所に轉戰したが 武運良く危險を突破

赤井村出身 福田福一君(通信)

――軍務多忙とは申し乍ら餘りにも意外なる御無沙汰を仕りました(略)月日の過ぐるのは早いものとや、暴戾極る友邦膺懲の軍に從事して最早〇ケ月餘、其間お蔭樣にて〇〇上陸以來第一線に立つて各所に轉戰したが武運よく屢次危險を脫する事が出來ました事は銃後の皆樣が日頃から御加護下されし賜として深く感銘致して居ります。

次に戰況の方も內地にては旣に御存知の通り皇軍の幾多年命が戰場の土に滲み砲煙と共に消え去つた〇〇戰線、敵が第一の堅陣と賴む〇〇〇の陷落に次いで〇〇河の渡河戰〇〇鎭に〇〇と敵陣地の全面的崩壞により敵は縮々と總退却を始めこれを攻擊する事に再度ばかり〇〇に向つて急進し、又急追擊征には我が無敵卒軍が到る處に遺憾無き爆擊を敢行して空陸相呼應し連戰連勝を以て主要なる地點を攻略せり

敵もこの我が皇軍の精鋭には抗し難く終に〇〇〇を放棄、完全に我が軍の入城、今は城壁高く日章旗飜つて只無殘なる敗戰の跡を殘して居ります、近頃は銃砲聲の音も無く誠に靜かなものです。

私らは城外に有國民革命軍遺族女子學校々舍に每日今後の命を待つて待機中ですから何卒御安心下さい。尙は銃後の皆樣には時局柄御多用御苦勞樣の事と存じます留守中の事は格別なる御世話樣に預り此地より厚く御禮申上げます。御疎音の點は戰鬪急の爲め遂その機を逸します故御諒恕を願ひます(後略)

十二月二十九日

# 機會を待つ

市內古鍛冶町出身 吉江忠愛君

銃後に於ける絕對の御支援と皇軍に對する全幅の御信賴に對し奉り唯一途死を以て御奉公を上念願致し居り候得共未だその機會に惠まれず洵に慚愧に不堪玆に表情を披瀝して年頭の祝詞に代え申候

最新式穴の傷まぬ 洋式ドンコ帳簿 一圓、一圓八十錢 二圓五十錢
書く手間が要らぬ デリカ切拔き住所錄(人名簿) 二〇〇名、三〇〇名 五〇〇名、一千名、各種
魁文堂 電話313番

國產 トウランプ
良い電球は眼の護り
東西會社の新商品 石鹸 齒刷子 齒磨 連鎖店にあり

簡易の金融 磐城無盡 貯蓄の趣味
縣內各町出張所

廣告

新曆一月十九日 水曜 舊曆十二月十八日 辛亥 大安 開 壁宿

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 何物も妨ぐること能はざる隆運日起業大吉▲二黑 心身共に落付かず旅行移轉企業何れも凶日▲三碧 手紙書付け等人の手に殘る物には注意の日 ▲四綠 苦はさりておいおいと樂に向ひ來る日金談は凶▲五黃 ゆ斷すれば逆行し易き日金談約束事何も凶▲六白 內に英氣を養ふて輕擧妄動は深く戒むべし▲七赤 事成るに近きて瞬間に破敗を生じ易き日▲八白 氣分なん弱におちいり易き日無理な偽れば損失す▲九紫 心の曇り取れて愉快に物事の運び行く日

チフス豫防第一
恐ろしいチブス菌も內服ワクチン(大人用七錢 小人用二人分)服めば安心
皆樣御用意ありますか。若しなかつた今スグ四十四番へ御電話下さい早速御屆け致します
(但し舊平市內だけ)
平市古鍛冶町一〇(縣社の下) 阿康藥局

公債、株式、賣買 一般證券業務
平市三町目 電話一七七番
助川町天王町 電話六九番
大子町榮町 電話二九番
營業所 水戶市泉町二丁目 電話二四〇一・六〇番
友部株式店

給仕募集 御望みの方は委細面談

昭和十三年度入學生募集人員
本科(修業年限二ケ年)五〇名
技藝科(修業年限二ケ年)五〇名
專攻科(修業年限一ケ年)二〇名
各科二年 補欠入學生 若干名
課外教授
本校生徒ハ希望ニ依リ左記科目ノ習得ガ出來マス
タイプライター 將來職業婦人タラントスルモノ
琴、生花 家庭婦人トシテノ準備
ピアノ 音樂研究ヲ志スモノ
洋裁 洋服裁縫ヲ研究セントスルモノ
『タイプライター』修得者ハ本校ニ於テ就職ヲ斡旋致シマス
文部大臣認可 平陽女學校
平市播槌小路二十番地 電話四四五番 振替口座仙臺五六八二番

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院 平市田町(元合津醫院跡) 電話五五九番

整形外科專門 X光線科
大河內醫院 平市播槌小路 電話五八八番